

安曇川上流漁場の水温モニタリング調査

吉岡 剛

1. 目 的

県内河川漁場では、アマゴ・イワナ・ニジマス・アユ等が漁業権魚種に設定されている。

近年、夏期に猛暑日が続き、河川が渇水になる状況が見られ、河川水温が以前より上昇している可能性が考えられる。

効果の高い種苗放流を行うには、魚種ごとの適水温を考慮する必要がある。そこで、安曇川上流漁場について、夏期の水温モニタリングを実施した。

2. 方 法

令和5年5月18日に、安曇川上流漁場の上流・中流・下流の3地点にデータロガー(ONSET社製 HOB0 Pendant Data Logger UA-002-64)を設置し、1時間毎の水温を測定した。

水温測定地点は、上流が坂下橋(大津市葛川坂下町)、中流が曙橋(大津市葛川坊村町)、下流が貫井堰堤上(大津市葛川貫井町)とした(図1)。ロガーは、令和5年7月17日、8月29日、11月4日に回収・交換し、回収したロガーから水温データの読み込みを行った後、日間最高水温を抽出した(図2、図3、図4)。

3. 結 果

調査期間を通じての最高水温は、坂下橋(21.9℃)、曙橋(27.1℃)、貫井堰堤(27.0℃)であった。坂下橋は高水温期に20℃前後であり、坂下橋より上流はイワナ・アマゴの放流に適していると考えられた。

曙橋や貫井堰堤は、25℃を超える日が数日確認されており、アユの放流に適していると考えられた。

なお、8月中旬に台風による増水があり、曙橋、貫井堰堤では水温の大幅な低下が見られた。

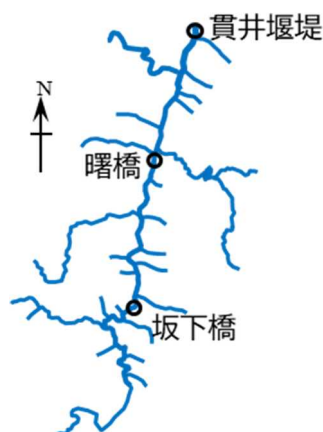


図1 データロガー設置場所

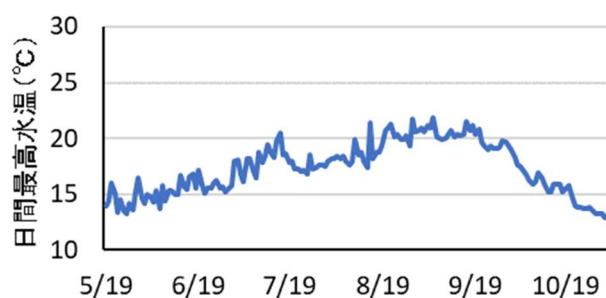


図2 坂下橋の日間最高水温推移

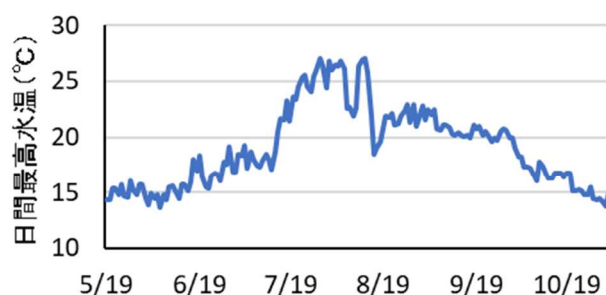


図3 曙橋の日間最高水温推移

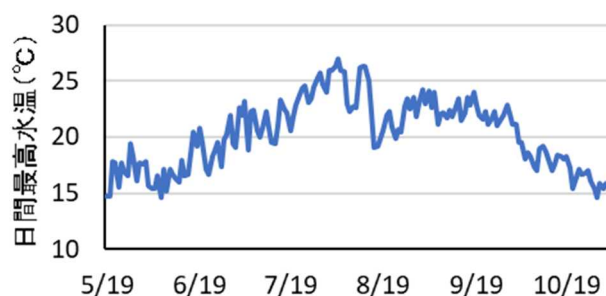


図4 貫井堰堤の日間最高水温推移